

# 第76期 中間報告書

2024年4月1日から2024年9月30日まで

CAPITA 株式会社 **CAPITA**

# ご挨拶

株主の皆様には平素より格別のご支援を賜り誠に有難く心から厚く御礼申し上げます。

さて、当中間会計期間（2024年4月1日～2024年9月30日）におけるわが国経済は、資源価格の上昇、物価高、円安、世界の不安定な情勢は続き、日常生活の個人消費は伸び悩み、金融政策、株価の変動等により依然、国内経済の先行は不透明感が続いております。

このような状況の下、当社におきましては地域の皆様を中心としたライフラインの機能性が高い事業を営む企業として、「安全・安心」と「安定供給」を最優先し、経営資源の有効活用をテーマに環境に応じた運営方針により、業績の回復に努めてまいりました。

当中間会計期間の売上高は19億71百万円（前年同期比27.6%増）、営業利益は60百万円（前年同期比210.9%増）、経常利益は54百万円（前年同期比230.4%増）、中間純利益は41百万円（前年同期比304.2%増）となりました。

セグメント別の業績を示すと、次のとおりであります。

## （石油事業）

石油事業におきましては、ロシア・ウクライナ問題における世界的な原油価格の高騰、また円安傾向の横ばいが変わらず続いており、石油価格は高水準の状況が続きました。当社SS事業部に関しましては、環境が厳しく変わる中、引き続き販売数量と適正な口銭（マージン）確保を根幹に店舗運営時間及び運営形態の見直し、油外製品での利益拡大に努めております。

燃料油販売面では仕入れ価格の高水準が続く中、適正な収益確保に努めましたが、前年に比べ原油価格上昇による需要の停滞、燃料油の節約志向の上昇により、需要の改善を図ることができず販売数量が伸び悩む要因となりました。

しかし、油外販売面では集客施策の見直しによりコーティングや作業収益の改善を図っております。かねてより取り組んでいるウェブ集客に関しましては継続して行っております。また、菅馬場SS、和光SS、巣鴨SSの3SSで運営中のニコニコレンタカーの状況も好調に推移しており、また7月にオープンした「ニコニコレンタカー日野万願寺駅前店」も駅前立地が功を奏し好調なスタートとなっております。今後も当社レンタカー事業におきましては環境問題と顧客満足の双方の観点より、積極的に環境配慮型のエコカーの導入または入れ替えを図り、また店舗の立地や顧客のニーズに合わせて多様な車種構成を展開し、利便性の追求を図り積極的な運営を図ります。2024年9月期のSS事業部に関しましては前年同期と比べ、減収増益となりました。

石油商事事業部は、石油卸部門では引き続き新規顧客開拓を継続する為、メンバーの再編を行い、併せて仕入れ先の見直しや営業コストの見直しは継続的に行っております。また新たに売掛金のリスク対策もコストを検討しながらスタートさせ新規取引先獲得に向けて環境を整えました。また、原油価格の高騰による業績への影響を最小限に抑える為、小口配送やその他出荷形態などで、お客様の細かな要望に応える事に努め、改めて収益基盤の確立を行っております。販売数量に関しましては、売掛金リスクの回避と顧客ごとの利益性を見直しから、前年マイナスとなりました。口銭（マージン）に関しましては原油価格高騰による口銭の圧縮の影響はございましたが、仕入れ先の調整等の効果もあり堅調を維持しました。また物販事業においては新型コロナウイルスの制限緩和と国内のインバウンドの影響もあり、メインであるゴムネットの需要増加により好調な推移となっております。

これらの結果、石油商事事業部は販売管理費の見直しも行い、減収増益となりました。

石油事業全般におきましては、売上高10億22百万円（前年同期比9.4%減）、営業利益38百万円（前年同期比12.0%増）となりました。

（専門店事業）

自転車業界におきましては、自転車本体の価格高騰が続く影響で新車の買い替え需要が減少するとともに、一台の自転車を長く利用する傾向が顕著に現れるようになり修理需要が増加いたしました。他方、2023年4月のヘルメット着用努力義務化に伴い、ヘルメットの販売も順調に推移しました。専門店事業部の営業活動としては、SNSやホームページのブログ、外部媒体を活用した情報発信を基軸に集客販促活動に努めると同時に、作業効率改善も含めスタッフの技術力、販売力向上に取り組み、店舗利用価値の向上に努めました。

取扱商品の見直しを図りグループ店舗の規模を生かした仕入れ体制への移行を進めております。

アプリ廃止に伴い開始したLINEでは、友達機能を生かしユーザーの獲得を増加させ、さらなる情報の発信と来店ポイント機能によりリピーターとなる顧客獲得を狙い進めており、昨年12月の運用開始より2700人以上の方に友達追加を行っていただきました。また、自転車業界においても物価上昇に伴うリユース需要の高まりを見せ、中古車体の販売にも着手いたしました。

2024年度は、より高単価であり、社会的需要の高まっている電動自転車の増強を主軸に、昨年より開始したECサイト（コギーオンライン）の利便性を活用した新車販売戦略の推進を行ってまいります。10月末をもって、14年間に渡りご愛顧いただきました戸塚駅前店が閉店となり、今後基幹店舗へのさらなるリソースの集中を行い40年継続した信頼と実績をお客様へ還元していく組織へと成長させていきます。

これらの結果、専門店事業部におきましては、売上高3億50百万円（前年同期比0.7%増）、営業利益4百万円（前年同期比57.1%減）となりました。

（不動産事業）

不動産事業におきましては、当社の巣鴨ダイヤビル・川口ダイヤピア共に、現在は満室状況であり、計画的な修繕を継続しつつ、ビルの資産価値の維持と入居者さまへの安全・安心の提供に努めております。

トランクルームの運営に関しましても堅調に推移している状況が続いております。

また今期は販売用不動産事業では、1件の売買が発生したことにより、不動産事業部全体で、売上高5億99百万円（前年同期比751.7%増）、営業利益83百万円（前年同期比86.0%増）となりました。

今後の見通しにつきましては、石油事業における適正マージンの確保や油外粗利の増強を目指し、専門店事業部につきましても引き続き顧客ニーズに合った販売戦略を継続してまいります。

株主の皆様には、今後とも一層のご支援を賜りますようお願い申し上げます。

2024年12月

代表取締役  
社長

菊池正俊

# 中間貸借対照表

(2024年9月30日現在)

(単位：千円)

資 産 の 部		負 債 の 部	
科 目	金 額	科 目	金 額
<b>流 動 資 産</b>	<b>807,780</b>	<b>流 動 負 債</b>	<b>764,944</b>
現金及び預金	261,713	買掛金	50,235
受取手形及び売掛金	220,422	短期借入金	600,000
商 品	292,298	未払法人税等	4,368
その他の流動資産	33,345	その他の流動負債	110,340
<b>固 定 資 産</b>	<b>1,812,205</b>	<b>固 定 負 債</b>	<b>314,461</b>
<b>有 形 固 定 資 産</b>	<b>1,604,135</b>	長期預り保証金	86,023
建 物	134,126	再評価に係る繰延税金負債	195,448
土 地	1,441,047	その他の固定負債	32,989
その他の有形固定資産	28,961		
<b>無 形 固 定 資 産</b>	<b>1,275</b>		
<b>投資その他の資産</b>	<b>206,793</b>	<b>負 債 合 計</b>	<b>1,079,405</b>
差入保証金	173,821	<b>純 資 産 の 部</b>	
その他投資	61,432	<b>株 主 資 本</b>	<b>1,171,178</b>
貸倒引当金	△28,460	資 本 金	90,000
		資 本 剰 余 金	276,439
		利 益 剰 余 金	893,537
		自 己 株 式	△88,798
		評価・換算差額等	369,401
		土地再評価差額金	369,401
		<b>純 資 産 合 計</b>	<b>1,540,579</b>
<b>資 産 合 計</b>	<b>2,619,985</b>	<b>負債及び純資産合計</b>	<b>2,619,985</b>

(注) 記載金額は、表示単位未満を切り捨てて表示しております。

# 中間損益計算書

(2024年4月1日から2024年9月30日まで)

(単位：千円)

科 目	金 額	
売上高		1,971,692
売上原価		1,478,930
売上総利益		492,762
販売費及び一般管理費		432,441
営業利益		60,321
営業外収益		
受取利息	40	
受取配当金	88	
その他の営業外収益	543	672
営業外費用		
支払利息	6,441	
その他の営業外費用	85	6,526
経常利益		54,466
税引前中間純利益		54,466
法人税、住民税及び事業税	4,398	
法人税等調整額	8,289	12,687
中間純利益		41,779

(注) 記載金額は、表示単位未満を切り捨てて表示しております。

# 中間株主資本等変動計算書

(2024年4月1日から2024年9月30日まで)

(単位：千円)

	株 主 資 本				
	資本金	資本剰余金			利益剰余金
		資本準備金	そ の 他 資本剰余金	資本剰余金 合計	そ の 他 利益剰余金 繰越利益 剰 余 金
2024年4月1日残高	90,000	24,790	251,649	276,439	858,965
中 間 期 変 動 額					
剰 余 金 の 配 当					△7,207
中 間 純 利 益					41,779
中 間 期 変 動 額 合 計	—	—	—	—	34,571
2024年9月30日残高	90,000	24,790	251,649	276,439	893,537

	株 主 資 本		評価・換算 差 額 等	純資産 合 計
	自己株式	株主資本 合 計	土地再評価 差 額 金	
2024年4月1日残高	△88,798	1,136,606	369,401	1,506,008
中 間 期 変 動 額				
剰 余 金 の 配 当		△7,207		△7,207
中 間 純 利 益		41,779		41,779
中 間 期 変 動 額 合 計	—	34,571	—	34,571
2024年9月30日残高	△88,798	1,171,178	369,401	1,540,579

(注) 記載金額は、表示単位未満を切り捨てて表示しております。

## 会社の概要 (2024年11月30日現在)

会社名 株式会社CAPITA  
本社所在地 〒170-0002  
東京都豊島区巣鴨 1-11-1  
巣鴨ダイヤビル 3 F  
電話番号03 (6277) 5015  
資本金 90,000,000円  
発行済株式の総数 4,111,000株  
主要な事業内容 サービスステーション 6店  
サイクルショップ「コギー」 8店  
石油製品の卸および直販などの経営

## 取締役 (2024年11月30日現在)

代表取締役社長 菊池 正俊

取締役 新島 裕一

取締役 小野田 隼人

取締役 (監査等委員) 安部 修平

取締役 (監査等委員) 山田 俊徳

取締役 (監査等委員) 北戸 草太

## 店舗のご案内 (2024年11月30日現在)

### サービスステーション

東京都 巢鴨 SS

湯島 SS

Dr.Drive日野万願寺SS

埼玉県 SS ヨンク和光

入間大井 SS

神奈川県 ヨンク菅馬場店

### COFFEY

東京都 アーバンドックららぽーと豊洲店

トリエ京王調布店

埼玉県 コーンシティさいたま新都心店

神奈川県 たまプラーザ店

金沢文庫店

ららぽーと横浜店

藤沢店

川崎ルフロン店

## 株式についてのご案内

事業年度	毎年4月1日～翌年3月31日
定時株主総会	毎年6月
配当金支払株主確定日	期末配当……………毎年3月31日 中間配当を行う場合は毎年9月30日
単元株式数	100株
公告方法	電子公告の方法によります。 ただし、事故その他やむを得ない事由によって電子公告による公告をすることができない場合は、日本経済新聞に掲載して行います。
株主名簿管理人	東京都千代田区丸の内一丁目4番1号 三井住友信託銀行株式会社
同 連 絡 先	〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部 電話0120-782-031 (通話料無料)
特別口座の口座管理機関	東京都千代田区丸の内一丁目4番5号 三菱UFJ信託銀行株式会社
同 連 絡 先	東京都府中市日鋼町1-1 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 電話0120-232-711 (通話料無料) 郵送先〒137-8081 新東京郵便局私書箱第29号 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部

### (お知らせ)

- ・ 株式に関するお手続きについて  
株式に関するお手続き（届出住所／姓名などの変更、配当金の振込方法／振込先の変更など）につきましては、お取り引きされている証券会社へお問い合わせください。
- ・ 特別口座について  
株券電子化の施行日（2009年1月5日）以前に証券保管振替機構を利用されていない株主様の所有株式は、特別口座で管理されております。  
特別口座で管理されている株式に関する各お手続きは、上記の三菱UFJ信託銀行の連絡先へお問い合わせください。